

# アナフィラキシー判別困難

3/3 甲-3

新規ワロナウイルスのアクチンを巡り、米製薬大手ファイザー製品の接種が進む日本でも副反応の報告が集まりつつある。重いアレルギー「アナフィラキシー」を疑う例が続いたが、症状の似た別の反応と間違つ可能性もあり、十一日の厚生労働省専門部会では「医療現場が判断に迷つ」との議論に。女性に多い」とか、「化粧品が影響した」とか、「見方も浮上している。

國際基準17人中7人

厚労省「高いわけではない」  
厚生労働省は十一日、新型コロナウイルスワクチン接種後、重いアレルギー反応のアナフィラキシー発症が疑われた三十六人のうち、九日までに報告された十七人を調べた結果、国際的な基準でアナフィラキシーに当たるのは七人だったと明らかにした。先行接種した人の健康調査では九割が翌日に痛みを訴えたことも分かった。十二日開かれた専門部会に報告した。

シではないと評価した。部会では「現時点での安全性に重大な問題はない」との結論になった。

九日までに接種したのは約十万七千六百人で、百万人当たり六十五人が発症した計算となる。米疾病対策センター（CDC）の五人程度と比べると多いため、海外では二百人以上出ているとの研究報告もあり、部分の委員からは「決して日本が高いわけではない」「必ずしも各國が同じ基準でやっているわけではない」などとの意見が出た。厚労省は、引き続きデータを集め、監視を続ける方針。

類似症状も／女性多く化粧品影響？



「アナフイフキシに該当しないケースもあった」。十一日、専門部会長の森尾友宏・東京医科歯科大教授は、国

米国でも、接種を始めて間もない昨年十一月に、重いアレルギーと報告された三百七十五人のうち認定されたのは二十一人だった。接種が始まつたばかりの日本と同様に、医療現場でアナフィラキシーなどを判断する事が難しかったようだ。

イラキーの見分け方	
皮膚症状	・全身のじんましん ・全身のかゆみ ・目の充血や痛みなど
呼吸症状	・せきやくしゃみ ・呼吸困難感 ・鼻水が出るなど

因果關係

独自に判別の図を作成し、接種会場に掲示。その後に血液検査などで副反応を検証する準備を進めてくる。

医師や看護師らへの接種を進め、国内の病院が九日までに厚労省に報告した十七人のうち、国際基準で認定されたのは七人。ある委員は、医療機関(?)に副反応の解説がまちまちになっている現状があると指摘した。

第一に新規二回目に限らず、予防接種後におまじないす汗、血圧の低下など、アナフライキシーに似た症状が出るものが知られている。よくある原因の一つが「血管迷走神経反射」だ。

**アナフィラキシーと血管迷走神経反射を判別するための図**

```

graph TD
    A[気分が悪い、顔色が悪い] --> B[ベッドでの臥位を考慮(症状が軽ければ座位で経過観察)]
    B --> C[下肢掌上・脈拍・血圧測定]
    C --> D[皮膚症状、呼吸器症状の確認]
    
    D -- あり --> E[皮膚症状]
    D -- なし --> F[呼吸症状]
    
    E -- 全身のじんましん、発赤 --> G[アナフィラキシーの疑い]
    E -- なし --> H[血管迷走反射の疑い]
    
    F -- せき --> G
    F -- ぜん鳴 --> G
    F -- 呼吸困難感 --> G
    F -- 声がかかる --> G
    F -- くしゃみ --> G
    F -- 鼻汁 --> G
    F -- 前からある症状は除く --> H
    
    G -- 重症 --> I[ボスマシン0.5mg筋注]
    G -- 軽症 --> J[抗ヒスタミン薬内服]
    I --> K[2病棟搬送]
    J --> L[ベッドにて下肢掌上バイタルチェック継続]
    K --> L
    
    H --> L
  
```

※まれに重症な迷走神経反射で、酸素、生投与、アトロビン0.5~2mg(1~4ml)の皮筋注入、静注が必要になることがあります

※国立病院機構三重病院の資料を基に作成

市)では、「ワクチンを接種せられた医療従事者が血管迷走神経反射と診断された。勤務する最年少医師(アレルギー学)は「敏感で、注射が苦手な人や疲れている人がなりやすい」と指摘する。アナフライキシーであれば血圧低下などに加えて舌節しづやせきといった呼吸器の症状、じんましん、かゆみなどの皮膚の症状が両方出る。三重病院は

いた  
界最速のベースで接種が進む結果は非常に高いといわれる。世界最速のペースで接種が進む  
イスラエルでは、一度の接種により感染や発症、重症化が  
90%以上食い止められたと米国医学誌で報告された。  
日本感染症学会ワクチン委員会の委員長を務める西順一郎鹿児島大教授(感染症学)は「打つ意義は高いと思う」と語っている。